平成17年度第1回鳥取市学力向上推進委員会会議録

平成17年8月29日

PM:4:00～

市役所第2庁舎5階会議室

1 教育長挨拶

学力推進委員会を今年度4回予定している。学力の実態を示して、皆様の意見をいただきたい。特に、質問紙の中の内容が気になっている。鳥取市の児童生徒数は、鳥取県の3分の1を占めている。緊張感と責任感で身の引き締まる思いである。

2 委員委嘱

- 自己紹介
- 委員委嘱

3 学力向上推進委員会設置要項の確認

- 小学校・中学校の9年間を見通して、子どもを育てていきたい。
- 教員の指導力を向上させたい。
- 基礎学力調査分析による学力向上に向けた具体的な行政施策を講じたい。

4 委員会役員選出

5 事業趣旨説明

- 学校の教育・経営の方針努力点の中でも述べているように、「基礎基本を身につけること」を大切にしたいと考えている。それを実現していくために「学力向上推進委員会」の設置を明言している。みなさんに提言をいただいて、行政が施策を行っていきたい。
- 66校でおよそ16000人の児童生徒がいる。鳥取市の先生は熱心に取り組んでいるが、多くの問題点を含んでいる。資料 P6 に示しているように、推進事業を考えている。教育の問題には、地域の教育力・家庭の教育力など多くの要素が複雑に絡み合っているが、ここでは、教育現場で何ができるのかということを考えていきたい。
- 中学校区ごとに、9ヶ年の中で子どもを育てていくことをねらいとしている。ここで話し合われたことが、学校に伝わる仕組みである。生きて働く委員会にしていきたい。

6 報告

「鳥取市の学力等の現状について」

- 学校間格差が大きすぎる。

・ 通過率は、県平均と同じくらいである。
・ 問題は、質問紙の内容である。中でも「学校が好きだ」という項目について、学年が進むにつれて数値が低くなっている。また、「学校には、安心して相談できる先生がいる」も低い。「自分の学校では、落ち着いて勉強できる」でも、同じ傾向が見られる。平成17年度の調査は、新市になって数値が幾分高くなっているが、旧市の数値は依然低い。
・ 生活習慣や規範意識との学力の関連性についても注目している。
・ 鳥取市の不登校の出現率もだんだん高い状態が続いている。大きな課題である。

7 協議 (委員→各推進委員の発言　事務→事務局の発言)

司会: 感想も含めて、普段考えていることを聞かせていただきたい。

委員: 貴重なデータを見せていただき、その結果に驚いている。生活環境・規範意識と通過率との相関関係はわかるが、合併後数値が上がった部分の学区別の通過率との相関関係、学力との関係についてはこれから作られるのか。

事務: これから、しっかりとご呈示をしたい。必要な資料があれば要求してほしい。

委員: このデータを見て、ショックを受けている。よい方向に向くように、提言したい。責務は重大である。

委員: 学校の格差がある。それには、いろいろな要因が考えられる。一般的なことを言っていては、効果は上がらない。言い方は難しいが、希望を持って進めていきたい。

委員: 学校現場も企業現場も同じだと感じている。自分のところでも、標語を作って取り組んでいる。「基礎基本を大切に・・・」サブテーマ「五感を活かして観察を磨こう・・」などと毎日100トンぐらいの鉄を動かして作業をしている。けがをするとか間違えるとか乱雑にするとかいったことが起こる。そこで、再度、機械の取扱説明書を読んで、機械の特性を活かそうというようなことを話し合っている。製造部は製造部で、営業は営業で基礎からやり直そうとしている。足元を見て活動しようとしている。その他にも様々な取り組みをしている。基礎基本を大切にしていくことと、どういうマニュアルを作っていくかと言うことが重要だと思う。

事務: 子どもだけの議論ではなく、指導者の視点からデータを捉える必要がある。何か指導者の側に困難さがあるのではないかと思う。それを抜きにして、子どもだけの議論をしていくのは危険性がある。経験で話をすると、妥当な部分とそうでない部分がある。教員自身の問題としてとらえていく必要がある。

委員: 知育重視のため、落ちこぼし・不登校などの問題が起こり、現在の状態になっている。豊かな心、モラル・マナー・ルールを大切にしたい。学力と平行して心も育てていかなければならない。心が人の生き方を決める。心がしっかりしていないと、夢を持てないし、夢を実現していくことができない。知育偏重にならないようにしていかなければならない。

委員: 合併に伴い、新市のやり方が入り、変わってきた部分もある。データには、新市のものも入ってきているが、クラスの人数とか先生とのかかわりなど良いものは良いものとして大切にしてほしい。

委員：　3年間の間に、職業についてもしっかり考えさせていく必要がある。就職する子もいるので、その観点から述べると、離職している子が多い。今に始まったことではないが、卒業後3年間の間に、半数が離職している。高校だけの問題ではなく、小中学校の時のことも関連しているかもしれない。

委員：　PTA 代表ということで参加している。学力の向上は、「どれだけ興味を持つか。どれだけ集中するか」ということに係っていると思う。教員との信頼関係が大切である。家庭では、規範意識をきちんと持たせないと確かな学力にもつながらない。

委員：　基礎学力調査は、市町村の学校を比較するためのものではない。この会で話し合われているように、どのように改善していくかが大切である。県としては、基礎基本を3つの視点で考えている。人間としての基礎基本、学び方の基礎基本、知識理解の基礎基本を大切にしたいと考えている。県も学力向上のプロジェクトを立ち上げて、いろいろな方の意見をいただいている。鳥取市としてどう取り組んでいくかを考えていってほしい。

委員：　学校間格差に驚いた。「学力が低いのは、子どもだけのせいか」ということを考えていかなければならない。教員・教育委員会・家庭・・今までの反省もいるのではないか。そこからスタートした方が、やりやすいのではないか。

委員：　いくつかに焦点を絞り、提言ができるよう、これから方向付けをしていきたい。

事務：様々な立場からいろいろな意見を聞かせていただき、ありがたい。この資料はいろいろな内容を含んでおり、宝の山である。いろいろなデータは提供させていただくので、多面的な議論をこれからもお願いしたい。ありがとうございました。